

薔薇の極意



恵庭市医師会
恵み野病院

かい しま みつ のぶ
貝 嶋 光 信

今年齢満72歳、6度目の年男を迎えることとなりました。九州で生まれ育ち、今でも九州弁が抜け切れませんが、28歳の時、縁あって旭川医大脳神経外科学講座（米増祐吉教授：当時）に職を得て、以来44年間に北海道で過ごしています。

現在勤務している恵庭市の病院には、1986年の開院と同時に36歳で入職しました。当初大学の教室からは3年務めたら九大に戻って良いと言われ赴任したのですが、当院の開設者であった近藤博先生のお人柄にほだされ、また年々規模が大きくなる診療の魅力に取り憑かれ、3年のはずが気づけば36年間にわたりお世話になっています。今更ながらこれが自分の運命だったのかと感じています。

さて、私とバラとの出会いは1998年5月10日、百合が原公園（札幌市）の園芸ショップでした。当時の私はガーデニングにはトンと興味は無く、庭の管理は妻に任せきりでした。妻はと言えば、私から見れば草花や樹木に精通しており、野草の名前もスラで言えるほどでしたが、バラだけは面倒だ！難しい！と敬遠していました。そんな2人が春まだ浅い5月、桜とムスカリの咲き誇る百合が原公園に出かけたのでした。

その園芸ショップにバラの苗木鉢が置かれていました。その一つを手にとると開花時のそのバラの優雅な写真と説明書が下がっていました。その名も「Great Century」、曰く「6インチ（約15cm）以上の大輪。真珠のような透明感のある淡いピンクで清楚な色合い。さわやかで甘いティー系の香り」などと英語で表記されていました。まだ若い芽が枝から吹き出したばかりで、葉も蕾も付いていませんでした。その日、バラには品種毎に名前があることを知り、そのバラはなんと15cm以上の牡丹のような花が開くと言うのです。妻と顔を見合わせ「買ってみる？」「よし買おう」と我が家に持ち帰ったのでした。

バラを育てるのは2人とも初めてですから、早速書店で「バラの育て方（鈴木省三著）」を購入し熟読しました。庭にバケツ大の穴を掘り、堆肥と土を入れ、苗木を植え込みました。蝶よ花よと育てること2ヵ月、ついに7月に大輪の花を咲かせたのでした（写真）。まさにビギナーズラック、これを皮切りにその年のうちに5株を購入し、翌年の春に向けて京成バラ園芸の通販で12株の裸大苗を注文しました。翌年は上野幌の雪印種苗園芸センターと百合が

原公園の園芸ショップで10株ずつ苗を購入し、2年目にして40株のバラを植え付けました。

初期の数年間「バラの育て方」に従って消毒や農薬を使い病害虫対策をしていましたが、4年目に入り、妻が無農薬・無消毒でやりたいと言い出しました。確かに農薬も消毒も臭いがきつく、これらを止めたい気持ちがあったので、「もしダメになったらバラも止めよう」と決心しました。その結果は？果たして無農薬・無消毒で全く問題ないのです。恐らく「バラの育て方」の多くは高温多湿の本州以南の地での教えです。彼の地では春4月と共にバラが咲き、梅雨と酷暑を乗り越えて改めて剪定をし、秋バラの開花に備えるのです。一方北海道ではバラは7月に咲く初夏を彩る花です。梅雨も酷暑も無いため、秋に備えて一斉に剪定をする必要はありません。春、雪解けと共に良い芽の直上で剪定し、株周りの中耕し、肥料をたっぷり上げます（我が家は高価なバラ専用肥料では無く、8-8-8の万能肥料に骨リン酸と熔リンを混ぜて与えます）。肥料と水を切らさなければ株は元気で病気もせず、夏に葉が落ちることもありません。花が一度終われば40cmくらい下で剪定するとまた2ヵ月後にはまた花が咲きます。Everbloomingと呼ばれる由縁です。ジョゼフィーヌ妃が愛したオールドローズの多くは一季咲が多いのですが、近年の新作のバラたちは病気にも強く、香りも豊かで、四季咲き性に優れています。

現在我が家には160株のバラが所狭しと競い合っています。病院の近くに住み、呼び出しの多い日々であって、ガーデニングは私の生涯を掛けた趣味になりました。Great Centuryと出会って24年、育てたバラは400株以上、第一号のGreat Centuryは未だに健在です。バラの極意を会得せりと一人悦に入っています。

